

# 森林と林業

(社)日本林業協会

2011年

2月

## トピックス

林政審 森林・林業基本計画と国有林野のあり方  
検討スタート

森林管理・環境保全直接支払い制度について

平成23年度税制改正

## 緑の論壇

山と森林と水 上流圏の国づくりから  
山梨県早川町 町長 辻 一幸

国際森林年

「森を歩く」～未来に向かって日本の森を活かそう～

## 里山の竹林の整備と利用を進める NPO法人 竹取物語（群馬県渋川市）

食用のタケノコの収穫だけでなく、物干し竿や庭囲い、箆や民芸品の素材として広く利用されてきた里山の竹林、この竹林が今は住民にとって厄介者となってしまっています。筍だけは旬の味覚の最右翼として人気を保っていますが、成長した竹の需要がみなプラスチックなどに取って変わられ、利用されなくなってしまいました。竹は成長が旺盛なため、隣接する里山林や農地に侵入し被害を与えるだけでなく、密生した林内は光不足で倒伏や枯れ死が目立つだけでなく、藪蚊の発生源になったり、不法投棄の場所ともなっています。住宅地近辺の竹林では防犯上の問題も指摘されており、社会問題化するほどに深刻な状況です。

このような里山の竹林を専門に整備をすすめているのがNPO法人の竹取物語です。

NPO法人・竹取物語の活動の特徴は、竹害が深刻な里山の竹林を整備するだけでなく、そこで除伐された竹材を竹炭・竹粉に加工し、法面緑化や園芸資材、厩舎の敷材、キノコ栽培の菌床素材など、また試験的に土壌改良材としての利用開発を図っていることです。

NPO法人竹取物語の高橋廣司理事長は「現在は緊急雇用対策などの財政措置があって、地方自治体からの助成金を活用する形で竹林整備をおこなっていますが、基本的には、この整備作業を通じて作業経費を賄えるような方策を確立しないと、整備が持続きしない。財源がなくなれば再び荒れ放題となってしまうのでは問題は解決しないわけです。竹取物語は除伐した竹材を資源として活用することで竹林整備を永続的に実施できないか検討しています。」として取組の概要を紹介してくださいました。

その活用方法とは、除伐した竹材を破砕し、竹炭や竹粉に加工したうえで、土壌改良剤や菌床、堆肥原料として利用することでした。除伐材の搬出コストを最小限に留めるため、林内に移動可能な破砕機をメーカーと共同して開発、除伐現場でチップ化した竹材を袋詰めとし、これをチップ炊きボイラーで炭化するという処理を講じます。

製造された竹炭や竹粉は思わぬ効果も発揮しました。水稻栽培に施肥として利用した結果は、収量の増加とともに、食味を表すスコアが88～100という、これ以上はない、優良産地並みの値を出しました。また、白菜の栽培では竹粉と竹炭を施肥した場合、通常の1.5倍程度までに成長して収穫を得ました。「竹粉と竹炭がどのように作用して収量の増加や品質の向上に寄与したかの学術的な根拠は今のところ明らかになっていません。このような部分も今後解明をしていきたい」とこれからの目標も語っています。

竹炭・竹粉としての活用を展開できたのは、上毛緑産工業(株)という現業部門で法面緑化事業を展開しており、粉砕機や炭化装置、発酵装置などを初期投資なく利用できたことも事業化の一助となっています。「竹炭や竹粉を一次産業で広く使用してもらうために、更なるコスト削減を図らなければならない。学術的な実証試験を進めつつ、販路を広げることでコスト低減が進んでいけば、竹が貴重な資源に生まれ変わる時も近いのではないかと」とは、竹炭、竹粉の事業展開に取り組む上毛緑産工業の本多良助常務の言葉でした。



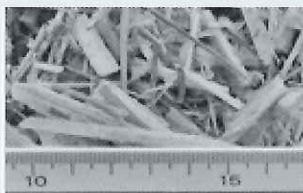
倒伏・枯れ死が目立つ竹林



伐倒現場でそくチップ化に



竹チップを林床散布するケースも



チップ化された竹材



高橋理事長（右）と本多常務